

小学校

平成 8 年 度

教育研究員研究報告書

家 庭

東京都教育委員会

平成 8 年度

教育研究員名簿

| 分科会 | 地 区 | 学 校 名 | 氏 名 |
|--------|---------|-------------|----------|
| 被 服 | 目 黒 | 東 山 小 | ◎間 口 節 子 |
| | 世 田 谷 | 京 西 小 | 高 畑 和 子 |
| | 練 馬 | 光 が 丘 第 八 小 | 下 島 公 子 |
| | 町 田 | 南 大 谷 小 | 大 矢 るり子 |
| | 武 蔵 村 山 | 第 十 小 | 岡 部 裕 子 |
| 食 物 | 中 野 | 上 鷺 宮 小 | 中 川 和 子 |
| | 豊 島 | 池 袋 第 一 小 | 望 月 桂 二 |
| | 葛 飾 | 宝 木 塚 小 | ○八 板 政 子 |
| | 小 平 | 小 平 第 十 小 | 鈴 木 紀 子 |
| | 国 立 | 国 立 第 八 小 | 河 合 雅 子 |
| 東 大 和 | 第 一 小 | 加 園 正 子 | |

◎世話人

○副世話人

担 当 東京都多摩教育事務所指導課指導主事

倉 持 眞由美

目 次

| | |
|--|----|
| 目次と研究の概要 | 1 |
| I 研究主題設定の理由 | 2 |
| II 研究の基本的考え方 | 3 |
| III 研究内容 | 4 |
| 「被 服」領域 | |
| 1 指導計画と評価計画及び関連する教育の視点 | 4 |
| 2 実 践 事 例 | 6 |
| 事例1 高齢者との触れ合いを通してなみ縫いを学ぶ | 6 |
| 事例2 人と人とのかかわりを通して、生きた情報を収集し、活用する | 10 |
| 「食 物」領域 | |
| 1 指導計画と評価計画及び関連する教育の視点 | 14 |
| 2 実 践 事 例 | 16 |
| おいしくて、やすくて、つくるのが楽しい、おやつ作りを通して | |
| 事例1 おやつを探ろう | 18 |
| 事例2 おやつ作りに挑戦しよう | 20 |
| IV 研究のまとめと今後の課題 | 24 |

— 研 究 の 概 要 —

社会が急激に変化している今日、主体的によりよい家庭生活を創造し、実践に生かせる力を児童にはぐくむことが大切である。本研究では実践する力を育てるには、自分の生活に目を向け、自ら課題をつかむこと、進んで実践しようとする意欲を高めること、基礎的な知識や技能を大切にすることが必要と考えた。

そこで、時機にかなった課題を踏まえて追究を行い、時代を超えて変わらない人間性を磨く上からも、人と人との触れ合いを大切にすることを通して、よりよい家庭生活を実践する力を育てることになると考え、家庭、地域社会とのかかわりの視点を重視しながら、解明することとした。

授業実践に当たっては、様々な人材を活用し、地域とのかかわりを通して、「被服」と「食物」領域に分け、学習活動や学習環境・評価支援等の面から工夫を加えることとした。そして、授業実践をもとに考察を進め、研究を深めた。

主体的によりよい家庭生活を実践する力を育てる指導の工夫

— 「被服」 「食物」 領域の指導を通して —

I 主題設定の理由

子供たちは、高齢化社会の担い手として、その存在が親だけでなく社会からも期待される人材となっている。また、子供たちは、文化の継承者であるとともに創造者である。

このように21世紀を創造する子供たちをはぐくむためには〔生きる力〕と〔ゆとり〕が必要であり、学校教育においては、自ら学び、自ら考えるなどの生涯学習の基礎的な資質の育成が重要となっている。また、家庭科教育においては、児童が自立した生活者としての第一歩として、自分の暮らしは自分で大切に、よりよい家庭生活を目指し、家族と協力して自立した生活を、作り上げていこうとする意欲や実践力を身に付けることが大切であると考え。まさに、家庭科は児童が現在の生活を大切にしながらも、将来に向けて望ましい自立した生き方をするための素地を学ぶ教科であり、〔生きる力〕をはぐくむために必要とされる様々な教育課題を学ぶことができるという重要な役割を果たしている教科であると考え。

一方、現在の児童に目を向けると、勉強や習い事に忙しく家庭で過ごす時間が少ない。それゆえ、家庭と一緒に過ごす時間が少ないことや家族の一員としての役割をもつことができにくいことなど、自分の生活を見つめ直し、生活者としてよりよくしようとする意欲や実践力が育ちにくい傾向がある。また、家族との触れ合い、地域社会の人々との触れ合い、高齢者との触れ合いなど人と人とのかかわりが薄いなどの現状がある。

そこで、児童が家族や地域社会の一員として、また、自然の中の一員としての立場を自覚し、共によりよく生きようとする態度とそれを実践する能力を身に付けること、生活の中で課題を見つけ、主体的に課題を解決し、課題解決の過程で学習したことを日常生活の中で進んで実践し、人とのかかわり合いの中で互いを認め、共に成長する児童の育成を図るために、本主題を設定した。

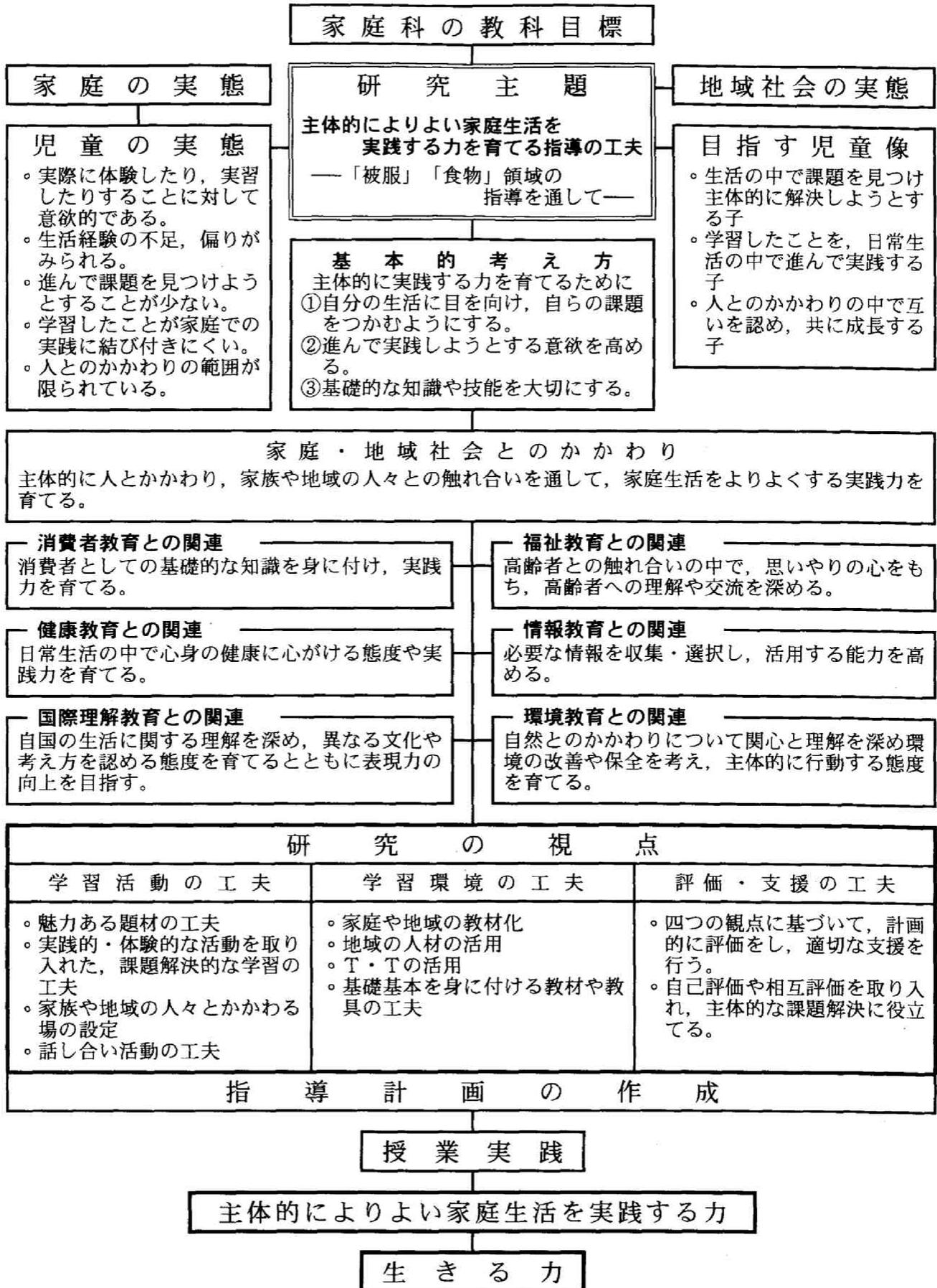
家庭科の学習内容を地域社会とのかかわりをはじめとして、環境教育、健康教育、消費者教育、福祉教育、国際理解教育、情報教育など現在必要とされる教育課題との関連を明らかにしつつ、この研究を進めていく。研究を進めるに当たっては、児童が課題の解決をしやすい「被服」「食物」の2領域について深めていくこととした。

II 研究の基本的な考え方

研究主題に迫るため、次ページの研究の構想図のように現在必要とされる教育課題との関連を考えながら、研究の構想を立てた。児童が、主体的によりよい家庭生活を実践する力を身に付けるには、以下の3点を指導の重点と考え研究を推進した。

- ① 自分の生活に目を向け、自らの課題をつかむようにする。
- ② 進んで実践しようとする意欲を高める。
- ③ 基礎的な知識や技能を大切にす。

< 研究の構想図 >



Ⅲ 研究内容

「被服」領域

1 指導計画と評価計画及び関連する教育の視点

主体的によりよい家庭生活を実践する力を育てるために、次のような手立てを考え、第5学年での指導計画、評価計画を作成し、さらに関連する教育の視点を明らかにした。

- (1) 実践的・体験的な活動を通して家庭でも「やってみたい」という意欲をもち、家庭での実践に結び付けることができるようにした。
- (2) 基礎、基本を身に付けることが大切と考え、自ら課題を見つけ追求していく課題解決的な学習を多く取り入れ、学んだことが家庭での実践へ広がるようにした。

第5学年「被服」領域の指導計画

| 学期 | 題材名 | 小 題 材 名 | 主 な 学 習 活 動 |
|--|---|---|---|
| 1 学 期 | ぬ い る 物 も で き る よ 12 | ○なぜ衣服を着るのだろう | ①日常、着ている衣服の着方について調べる。 ②衣服の着方や、働きを考える。 ③実際に引き出しに衣服を収納する活動を通して、収納の仕方を工夫する。 |
| | | ○さいほう用具を使ってみよう | ①玉結び、玉どめ、ボタン付けの練習をする。 |
| | | ○楽しい小物を作ろう ○なみぬい名人になろう | ①作りたい小物の計画を立てる。 ②計画にしたがって、小物作りをする。 ③縫い物の達人を迎え、縫い方や作品を観察し、より上達できるよう練習する。 |
| 2 学 期 | ミ シ ン と 友 達 に な ら う 8 | ○ミシンを使ってみよう | ①ミシン縫いと手縫いの違いに気付く。 ②安全に気を付け、ミシンの使い方を覚える。 |
| | | ○ミシンぬいをしよう | ①針を正しく付け、から縫いの練習をする。 ②下糸まき・上糸かけの練習をする。 ③直線縫いの練習をする。 |
| | | ○直線ぬいを使った簡単な作品を作ろう | ①直線縫いを使った作品の計画を立て、作品を作る。 |
| お 気 に 入 り の 袋 を 作 ろ う 8 | ○いろいろな袋を調べよう | ①身のまわりの袋を調べ、作りたい袋の形を考える。 | |
| | ○お気に入りの袋を作ろう | ①製作手順を布を使って考える。 ②しるしを付ける。 ③ミシンで縫う。 ④ひもや把手を付ける。 ⑤飾りなどの工夫をする。 ⑥作品の発表会をし、互いのよい所を話し合う。 | |
| 3 学 期 | な お つ た 話 人 に ! 2 | ○プレゼントを作ろう | ①今まで学習したことを生かして、お世話になった人へプレゼントする物を考え、計画を立てる。 ②計画にしたがい、作業する。 ③手紙を添えて、お世話になった人へ手渡す。 |

- (3) 高齢者や保護者などの地域の人材を活用したり、T・Tを取り入れたり、人と人とのかわりを重視した。
- (4) 評価計画は、指導計画に沿って作成し、観点別学習状況の4つの観点を明らかにした。
- (5) 主な学習活動が家庭科教育に深いかかわりをもつ「消費者教育、健康教育、環境教育、情報教育、福祉教育、国際理解教育」の6つを明確にした。

| 時間 | 評価規準 | 評価の観点 | | | | 関連する教育の視点 |
|----|---|----------------|----------|-------------|----------|---|
| | | 関心 意欲 態度 | 創意 工夫 | 技能 | 知識 理解 | |
| 3 | ①衣服の着方について進んで調べようとする。 ①衣服の働きや着方が分かる。 ③衣服の収納の仕方を工夫する。 | ① | ③ | | ② | |
| 5 | ①玉結び、玉どめ、ボタン付けができる。 | | | ① | | ・ボタンがとれたとき、修理して使う等、物を大切にすることを育てる。「消費者教育」 |
| 4 | ①小物を工夫して作ろうとする。 ②計画にしたがい、小物作りができる。 ③なみ縫いができる。 | ① | ① | ② ③ | | ・高齢者等、地域の人々のよさに気付き、敬う気持ちを育てる。「福祉教育」 |
| 1 | ①ミシン縫いの特徴が分かる。 ②ミシン縫いに関心をもち、進んで取り組もうとする。 | ② | | | ① | ・正しい機械の扱い方を使用説明書を見て考える。「消費者教育」 |
| 5 | ①正しく針を付け、から縫いができる。 ②下糸まき・上糸かけができる。 ③直線縫いができる。 | | | ① ② ③ | | ・ミシン縫いの仕方など保護者等から情報を収集する。「情報教育」 |
| 2 | ①ミシンを使って、簡単な作品を作ることができる。 | | ① | ① | | ・相互評価をし、個人のよさに気付く。「国際理解教育」 |
| 1 | ①いろいろな袋を調べようとする。 | ① | | | | ・いろいろな袋があることに気付く。「情報教育」 |
| 7 | ①手順を考え、作業計画を立てる。 ②しるし付けができる。 ③ミシンで縫うことができる。 ④ひもを縫うことができる。 ⑤飾りなどの工夫をする。 ⑥意見を発表しようとする。 | ⑥ | ① ⑤ | ② ③ ④ | | ・布の選び方や、丈夫な縫い方など選び方の目を育てる。「消費者教育」 ・必要な布を、端から無駄のないようにとる。「消費者教育」「環境教育」 |
| 2 | ①学習したことを生かして、作品作りの計画を立てる。 ②計画にしたがい、作業する。 ③人と交流を深めようとしている。 | ① ③ | ① | ② | | ・身近にある布などの有効活用をする。「環境教育」 「消費者教育」 ・高齢者や、地域の人々等との交流を深める。「福祉教育」 |

2 実践事例

事例1

高齢者との触れ合いを通してなみ縫いを学ぶ

(1) 題材名 ぬい物もできるよ 小題材 楽しい小物を作ろう

(2) 題材の目標

- 衣服の選び方に目を向け、衣服の働きに気付く。
- 衣服の特徴を知り、目的に応じた着方を工夫する。
- 裁縫用具の扱い方が分かる。
- 名前の縫い取り、ボタンつけを通し、玉結びや玉どめなど基礎的な縫製の技能を習得する。
- 本返し縫い、半返し縫い、なみ縫いを使って小物を製作し、布や用具の扱い方に慣れる。

(3) 研究主題とのかかわり

① 題材について

児童は、初めて裁縫用具を手にとると「早く使いたい早くぬってみたい」と、心をはずませる。児童の縫いに関する経験を実態調査すると、小物や袋、雑布などを作った児童が約半数、針や糸を使ったことのない児童が約1/4であった。

そこで、「被服」領域の導入期である第5学年の学習では、基礎・基本の定着を行うとともに、児童が主体的に学習に取り組めるような指導を考えていくことにした。本題材では、経験や能力にかかわらず、どの児童も自分なりの目標をもって取り組めるよう、興味をもてるような題材の流れを設定したり、タイトルを工夫したりした。また、机上の学習にとどまらず、具体的な作業を通し、児童が課題に気付いて解決できるような課題解決的な学習を取り入れた。さらに、一人一人の作品を集めて、クラス全体で一つの大きな作品に仕上げるというめあてを明確にして、一人一人が見通しをもって、作業に取り組むことができるとともに、完成の成就感を味わえるようにしたいと考えた。

本時には、裁縫に堪能な方を地域から招き、児童が直接「名人の技」に触れる経験を通して、本物との出会いや人との触れ合いを大切にしたい。また、名人には、ししゅうの作品や手芸品の数々を紹介していただき、児童が縫うことの楽しさに気づき、興味・関心や意欲を喚起できるようにした。

② 関連する教育の視点

福祉教育との関連

“なみ縫いの名人”として、「クラスの友達のおばあちゃん」という身近な地域の高齢者を招き、縫い方のコツなど、「技」に直接触れられるようにした。ここで特に、高齢者を招へいたしたのは、核家族化が進む現在、高齢者から学ぶ機会を設定し、高齢者との触れ合いや高齢者のよさを知ることが目的としたからである。

※ 地域の方を講師として招くまでの手順

- 児童への呼び掛け（アンケート）により、身近な方で縫いものが得意な方を募る。
- 担任を通じて連絡を取り、校長からの依頼の文書をもって、授業への協力を依頼する。
- 事前に来校していただき、授業の流れや役割について打合せを行う。授業後は、実践しての感想をいただき、その後児童からお礼の手紙を贈る。

③ 研究の視点

ア 学習活動の工夫

- 学級で共同作品作りをするというめあてを明確にして、玉どめやボタン付けなど、楽しく作業するうちに、自然と基礎的な技能が習得できるようにした。
- 実際に児童が縫ったなみ縫いと、名人が縫う姿や縫ったものを比べることで、どうしたら上手になみ縫いができるか考え、自分の課題をもって学習できるようにした。

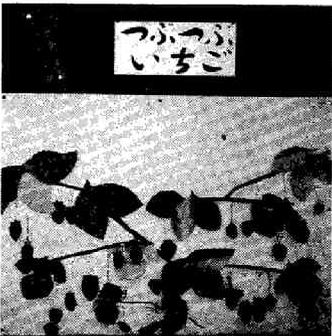
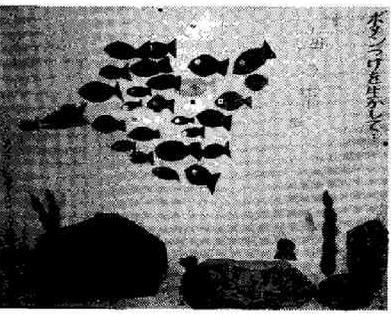
イ 学習環境の工夫

- 個々の作品を集め、クラス全体で大きな作品として提示することで、自分の作品が必要であるという自覚をもち、達成の喜びを味わえるようにした。
- 身近な地域の人（友達のおばあちゃん）を招き、豊かな経験をもつ方とのかかわりの場を設定することで学習への関心を高め、縫うことの楽しさを味わえるようにした。

ウ 評価・支援の工夫

- 作品を提示して、児童が互いの作品を見合い、よさを認め合えるようにした。
- 単に作品のできばえを評価するだけでなく、地域の方との触れ合いの様子や、作品に取り組む過程で、児童のよさを認めるようにした。

④ 学習指導計画 「ぬい物もできるよ」

| 第一次 3時間 なぜ衣服を着るのだろう | 第二次 5時間 さいほう用具を使ってみよう | 第三次 4時間 楽しい小物を作ろう |
|--|--|---|
| <p>1. 衣服のはたらき 「衣服のはたらきってなあに」</p> <p>2. 衣服の着方 「衣服図鑑を作ろう」</p> <p>3. 衣服のしまい方 「タンスすっきり」</p> <p>「ツブツブいちご」</p>  | <p>1. 裁縫用具の種類 「さいほうに必要な物ってなあに」</p> <p>2. 玉結び 「玉結び名人に挑戦」</p> <p>3. 玉止め 「ツブツブいちご」</p> <p>4. ボタン付け 「海の中」</p> <p>5. 名前の縫い取り 「すてきなネームプレート」</p> <p>「海の中」</p>  | <p>1. 布の縫い合わせ方 「本返し、半返しでじょうぶにぬおう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本返し、半返しの針の運び方を調べ、練習する。 <p>2. なみ縫い ※本時 「なみぬい名人になろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なみ縫いの名人を迎え、高齢者と触れ合いながら、直接に学ぶ。 <p>3. 楽しい小物を作ろう 「こんな小物があったらいいな」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習を生かし、生活を楽しくし、便利な小物を考え、製作する。 |

(5) 指導の実際 「なみぬい名人になろう」(2/4時間)

① 目標

- 専門家(名人=地域の人)の知恵や技を知る。
- なみ縫いに意欲的に取り組む。
- なみ縫いの仕方が分かり、針目をまっすぐにして縫い合わせる。

② 展開

名人の周りに集まろう!



・スピードがはやい。
・目がそろっている。
・左手があんなに動いている。

名人は、グループ毎に巡回する。



いい? 左手で布をしっかり持って
こうやって、針を運ぶのよ。
もう一度 やって見せてください。

| 学 習 活 動 | 教 師 の 支 援 |
|--|---|
| <p>○事前に各自がなみ縫いをした作品と名人の作品を比べて、感想を発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目がそろっている ・こまかい ・まっすぐ縫っている | <p>○児童が縫ったなみ縫いと名人のなみ縫いの違いがよく分かるように、教材提示機を使い作品を提示する。</p> <p>○感想は、児童の言葉を大切にしながら、まとめる。</p> |
| <p>なみぬい名人になろう</p> | |
| <p>○名人に会い、作品や実際になみ縫いをする場面を見て感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピードがはやい ・目がそろっている ・左手が動いている ・布をしっかり持っている ・針がまっすぐに動く ・名人に近づくには、どうしたらいいのだろう <p>○実際になみ縫いをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて行う ・名人のなみ縫いを参考にする ・名人に指導を受ける <p>○感想を発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うまくなったところ ・名人への感謝 | <p>○名人を紹介し、いくつかの作品を見せる。</p> <p>○名人になみ縫いを実演してもらい、手つきなど「名人芸」に触れることができるようにする。</p> <p>○名人に、縫うときの「こつ」をあげてもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・針をしっかり持つ ・左手を動かす ・布をしっかりもつ <p>○名人に各グループを巡回してもらい、児童がより身近に触れられるようにする。</p> <p>○始めのなみ縫いと比べて、変化したところやうまくなったところに着目できるようにする。</p> |

(6) 考察

- ① 児童は、自分のなみ縫いと名人のなみ縫いを比較した後、名人が縫う姿を直接に見たので、児童一人一人が名人との違い(縫い目の大きさ、布の持ち方、左手の動かし方など)に気付き、自分の課題をつかんだ。このように、児童は課題を明確にして、意欲的になみ縫いに取り組んだ。
- ② 児童は、グループ毎に名人から指導を受けて、名人に尊敬の眼差しを送ったり、感謝の気持ちをもったりした。人と人との触れ合いを通して、児童は、触れ合いのよさに気付くとともに、なみ縫いの技術をさらに上達させたいという意欲を喚起していた。

| 評価 (観点/方法) | 資料 |
|--|--|
| <p>○2つの作品の違いを見つけようとしている。 (意/観察, 発表)</p> <p>○名人の技を一生懸命見て、どうすればうまくなるか、進んで考えようとしている。 (意/観察, 発言)</p> <p>○名人とかかわり、技術を伸ばそうとしている (意/観察, 作品)</p> <p>○なみ縫いの仕方が分かり、前時に比べまっすぐに縫っている。 (意・技/観察, 作品)</p> | <p>○前時の作品</p> <p>○名人のなみ縫いの作品</p> <p>○教材提示機</p> <p>○名人の作品 (ししゅう, 袋, 額等)</p> <p>○前時に使用した布</p> <p>自己評価)</p> |



先生は、縫い針を刺す時に、糸を引く力が弱すぎると、縫い目が壊れてしまいます。縫い針を刺す時に、糸を引く力が強すぎると、縫い目が壊れてしまいます。縫い針を刺す時に、糸を引く力が弱すぎると、縫い目が壊れてしまいます。縫い針を刺す時に、糸を引く力が強すぎると、縫い目が壊れてしまいます。



授業後の名人の感想
 ・大人が何気なくやっているなみ縫いですが、子供が初めてやるのには、とても大変なことだと分かりました。そして、それを教える先生の苦労もよく分かりました。



※ししゅうは、布をひっぱるのです。

そうか！
 そこを ひっぱるんですね。

先生は、縫い針を刺す時に、糸を引く力が弱すぎると、縫い目が壊れてしまいます。縫い針を刺す時に、糸を引く力が強すぎると、縫い目が壊れてしまいます。縫い針を刺す時に、糸を引く力が弱すぎると、縫い目が壊れてしまいます。縫い針を刺す時に、糸を引く力が強すぎると、縫い目が壊れてしまいます。

※ししゅうは、布をひっぱるのです。

事例 2

人と人とのかかわりを通して、生きた情報を収集し、活用する

(1) 題材名 ミシンと友達になろう！

(2) 題材の目標

- ミシンの種類、特徴としくみを理解し安全で正しい取り扱い方ができる。
- ミシンで直線縫いができる。
- ミシンを利用して、生活に役立つものを作ろうとする。

(3) 研究主題とのかかわり

① 題材について

ミシンは布を縫う便利な機械である。しかし現状では、既製品の普及や住宅事情など社会の変化によりミシンに対する価値観は多様化しており、児童のミシン縫いの経験も様々である。布を縫う学習は、技能を獲得すれば児童の学習の意欲はより高まり、主体的に学び、学んだことを、家庭生活にも生かそうとするであろうと考える。そこで児童の「早くミシンにさわってみたい、縫ってみたい。」という意欲を大事にするとともに、本題材においては、児童が操作の順序を正確に理解する大切さに気付き、正しい操作ができる力を身に付け、楽しく布をミシンで縫う力を身に付けさせたいと考えた。指導に当たっては、手縫いとの違いを明確にしミシンの針の付け方や確かめ方を理解させ、針を正しく付けることが実習中のケガやトラブルを防ぐ要因であることに気付くよう安全指導を徹底した。さらに、教師と保護者の方々に授業協力を依頼し人と人のかかわり合いの中から、学習の情報を収集し活用すること、また、ビデオなどの視聴覚機器を活用して学習の情報を収集するなど、個に応じた学習ができるようにした。このように、ミシンで直線縫いができることにより児童の生活に役立つものを作ろうとする意欲を高め、第6学年のエプロン作りに、つなげていけるようにこの題材を設定した。

② 関連する教育の視点

情報教育との関連

情報教育というと、すぐにコンピュータが思いうかぶが、今回は学びのための資料として、ビデオや教師、保護者の授業協力を受け人と人のかかわり合いの中から必要な情報を収集し、活用することにした。

※ 保護者の方に授業協力をしてもらうまでの手順

- 担任を通じて保護者会で、授業協力者を募る。
- 児童を通じて校長からの依頼の文書をもって、授業への協力を依頼する。
- 事前に来校していただき、授業の流れや役割について打ち合わせを行う。
- 授業後には簡単な話し合いを行い、その後児童から「お礼の手紙」を贈る。

③ 研究の視点と成果

研究主題に迫るために、次のような3つの視点から具体的な手立てを考えた。

ア 学習活動の工夫

- ミシンを利用して生活に役立つものを作ろうとする意欲を高め、ミシンを縫う機械として身近かに感じられる題材名などを考えた。
- 学習意欲を持続させるために、ミシン針の付け方、から縫いなど課題を明確にし、順次先に進める実践的・体験的な課題解決学習をとり入れた。
- 話し合い活動による情報交換の場を設け、自分の課題解決に役立てることができるようにした。

イ 学習環境の工夫

- ミシン針や縫い針の実物を用意し、比較判断できるようにした。
- ワークシートを活用し、課題解決や発表に役立てられるようにした。
- ビデオなどの視聴覚機器を活用し、より視覚に訴えるようにした。
- ミシンの使用回数を多くできるように、2人で1台使用した。
- 教師や保護者に授業協力を依頼し、個に応じた情報の収集ができるようにした。

ウ 評価・支援の工夫

- 適切な支援のための事前調査を行い、児童や家庭での実態を把握した。
- 授業後に学習を振り返り感想など自己評価を書くことにより、児童が自分の学習を見直すとともに、教師が適切な支援を行えるようにした。
- 予備のミシン針や練習布を用意しておいた。
- 個に応じた課題解決ができるように、保護者の方々やT・Tによる支援を受ける。

(4) 指導計画 時間配当 (8時間)

- ミシンを使ってみよう…………… 1時間
- ミシンぬいをしよう…………… 7時間 (本時 1/7)

(5) 指導の実際

① 目標

- 針の付け方や確かめ方が分かり、針を正しく付けることができる。
- から縫いで、直線縫い、角縫いができる。
- グループで協力しながら、安全に作業を進めることができる。



針の拡大教具による説明



T・T (教師) による支援

② 展開

| 学 習 活 動 | 教 師 の 支 援 | 評 価 (観 点 / 方 法) | 資 料 |
|--|--|---|------------------------------|
| <p>○手縫い針とミシン針の特徴を見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糸を通す穴の位置 ・みぞがある ・針の型など | | <p>○ミシン針の特徴をみつけようとしている。</p> <p>(意 / 観察)</p> | <p>針の拡大模型</p> <p>ワークシート</p> |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ミシン針をどのようにつけ、どのように縫うのか </div> | | | |
| <p>○ミシン針の付け方を予想し発表する。</p> <p>○ミシン針の付け方を調べ、針を付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオを見て使い方を調べ確かめる。 ・各グループごとに正しい針の付け方を確かめる。 ・ビデオを見て、確認しながら針を付ける。 <p>○分かったことをワークシートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・から縫いの手順を確かめる。 <p>○から縫いをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぬい始め ・ぬい終わり ・角の曲がり方 <p>○各グループごとに学習したことをまとめる。</p> | <p>○発表に当たっては思ったことを記録するとよいことを知らせる。</p> <p>○授業協力者を紹介する。</p> <p>○針止まりの位置をよく観察するように伝える。</p> <p>○針付けを、何回も練習するよう助言する。</p> <p>○ミシンの電源を入れる 布を無理に引っばらないように助言する。</p> | <p>○予想したことを発表しようとする。</p> <p>(意 / 観察, 発表)</p> <p>○ビデオを見て調べようとする。</p> <p>(意 / 知 / 観察)</p> <p>○針の付け方を進んで練習する。</p> <p>(意・技・知 / 机間指導)</p> <p>○針止めとめねじの確認。</p> <p>(意・技・知 / 観察)</p> <p>○ワークシートに進んで記録する。</p> <p>(意・知 / 観察・自己評価)</p> | <p>ビデオ</p> <p>針棒と止めねじの模型</p> |
| | | | <p>練習布</p> |

(6) 考察

「ミシンと友達になろう！」では、児童がミシンを使って、直線縫いができる力を身に付けることを課題とした。課題解決の方法としては、積極的に人とかかわることを通して、生きた情報を収集したり、支援を受けたりして、直線縫いができるよう意欲的に練習を重ねることができるようにした。

① ミシン針と手縫い針の実物比較と実物模型・ミシン針拡大模型など教材教具の工夫

目で見て、触れる実物や拡大模型を用意したので、児童は興味関心をもち、積極的に針の付け方を学び、ミシンに親近感をもって、たのしく学習することができた。

② ビデオの活用

活字の情報だけでなく映像による情報は細かい機械の部分などが見やすく、児童が必要とする時に、繰り返し見ることができ課題解決に役立った。

③ ワークシートの工夫

1時間の授業で、課題解決に意欲的に取り組めるように、書く分量や書く項目を工夫したワークシートを作成した。

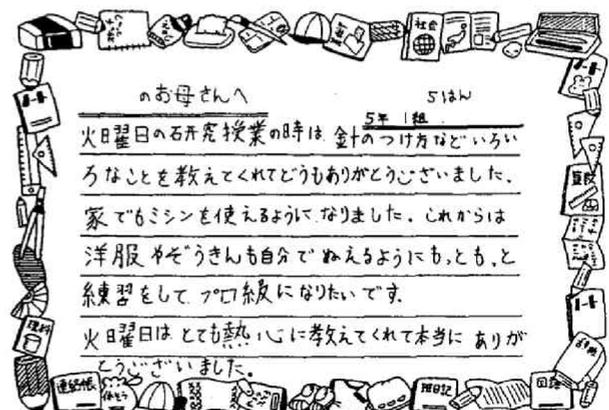
④ 支援の方法の工夫

教師や保護者に授業協力を要請し、課題解決のためより個に応じた指導の場を設定した活字や機械から与えられる情報だけでなく、人と人とのかかわりあいを通して児童が自分から助けを求めたり、また受けた情報を友達と交換し合ったりしながらどの児童も積極的に課題にそって学習していた。

今回、地域の人材活用として児童の母親に協力を依頼したが大変熱心に教えてくれ、和やかに授業が進んだ。また研究協議会にも出席していただいたが、その感想の中に「いろんな場面で子供がつまずき教えるのに大変でした。先生たちの苦勞が分かった」など学校に対しての理解も深まり、開かれた学校に一步踏み込めた感がある。これを機会に、今後もいろんな交流が生まれるように努力したいと思っている。



保護者による支援



お礼の手紙

「食 物」領域

1 指導計画と評価計画及び関連する教育の視点

| 題材名 | 小 題 材 名 (時数) | 主 な 学 習 活 動 |
|-------------|-----------------------------|--|
| 1 学 期 | ○おいしいお茶を入れよう (2) | ①家庭科室の使い方を知り、安全なガスこんろの使い方を調べ練習する。 ②おいしいお茶を入れ、グループごとに和やかな雰囲気ですらんする。 |
| | ○食べ物って何だろう (1) | ①毎日なぜ食べるのか考え、発表し合う。 ②五大栄養素と水の働きについて調べ、健康な体づくりに必要であることを発表し合う。 |
| | ○野菜を切ってみよう (2) | ①おいしい野菜サラダを作るために何を調べるか考える。 ②包丁やまな板等の安全で衛生的な扱い方について話し合う。 ③きゅうりを使って、自分なりの切り方に挑戦する。 ④先生や友達の切り方を見て、食べやすい切り方を知り実践する。 |
| | ○オリジナルの 野菜サラダを作ろう (3) | ①オリジナルの野菜サラダ作りの実習計画を立てる。 (グループごとのバイキング方式) ②実習計画の発表会をする。 ③計画にそって野菜サラダを作る。 ④実習の反省と家庭での実践計画をつくる。 |
| 2 学 期 | ○いろいろなたまご料理を調べよう (1) | ①観察してきた、たまご料理や調理法等を発表し合う。 ②たまごの栄養や特徴について考える。 |
| | ○たまごをゆでてみよう (2) | ①固ゆでたまごを上手に作る方法を考え、自分の好みに合ったゆでたまごを作る。 |
| | ○フライパンを使って、たまご料理を作ろう (3) | ①フライパンを使って、作ってみたい料理の方法を調べる。 ②実習計画を立て、正しくフライパンを使い実習する。 ③自分の料理のできばえやこだわりを発表し、友達の工夫にも気付く。 |
| 3 学 期 | ○もっと、野菜を知ろう (1) | ①野菜の名前や食べ方、含まれている栄養について考える。 ②緑黄色野菜の種類と特徴を知る。 |
| | ○わたしの○○入り野菜の油いためを作ろう (3) | ①油いための中に入れる○○の食品を考える。 ②手順を考えて計画表を作り、自分の工夫したところを発表し合う。 ③計画にそって、オリジナルの野菜いためを作る。 |
| | ○バランスよく食べよう (1) | ①食品は、六つの食品群にわかれていることが分かり、分類する。 ②日常の食品に関心をもち、栄養のバランスよく食品を食べる。 |
| 13 | おやつですよ！ 8 | (16ページの表を参照) |

| 評価規準 | 評価の観点 | | | | 関連する 教育の視点 |
|--|----------------|-------------|----|----------|------------------|
| | 関心 意欲 態度 | 創意 工夫 | 技能 | 知識 理解 | |
| ①家庭科室の正しい使い方と、ガスこんろの安全な使い方が分かる。 ②おいしいお茶を入れ、和やかに団らんする。 | | | ② | ① | ・環境教育 ・国際理解教育 |
| ①食物を食べる理由が分かり、発表しようとする。 ②五大栄養素と水の働きが分かる。 食品に含まれている栄養素に興味をもっている。 | ① ② | | | ① ② | ・健康教育 |
| ①野菜サラダの作り方に関心をもち、どんなことが分かればよいか考える。 ②包丁やまな板等の安全で衛生的な扱い方が分かる。 ③試し切りに意欲的に取り組む。 ④野菜の切り方を工夫し、サラダを作る。 | ① ③ | ① ④ | ④ | ② | ・環境教育 |
| ①サラダに合う野菜の切り方、盛り付け、味付けを自分なりに工夫し、計画を作成する。 ②発表を進んで聞き、自分の計画を見直す。 ③手順を考え、協力して能率的に実習する。 ④意欲的に計画を作成し、家庭で実践しようとする。 | ② ④ | ① ③ ④ | ③ | | ・消費者教育 ・環境教育 |
| ①たまご料理に関心をもち、調理法を調べて発表し合う。 ②たまごの栄養素やたんぱく質の性質が分かる。 | ① | | | ② | ・健康教育 ・消費者教育 |
| ①ゆでたまごを作る方法を考え、自分の好みに合ったゆでたまごを作る。 | | ① | ① | | |
| ①自分が作ってみたいたまご料理を決める。 ②正しくフライパンを使い、たまごを調理する。 ③発表を基に、自分の生活に生かそうとしている。 | ① ③ | | ② | | |
| ①野菜の栄養素が分かり、加熱の利点を考えている。 ②カロチンをとるための効果的な調理法が分かる。 | | | | ① ② | ・健康教育 |
| ①おいしい油いためを作ろうとしている。 ②友達の考えを取り入れながら、計画を立てる。 ③おいしい三色野菜の油いためを作ることができる。 | ① | ② | ③ | | ・消費者教育 ・環境教育 |
| ①食品を六つの食品群に分ける。 ②日常の食品に関心をもち、栄養のバランスよく食品を食べようとしている。 | ② | | | ① | ・健康教育 ・国際理解教育 |
| (17ページの表を参照) | | | | | |

事例 2

おいしくて やすくて つくるのが楽しい おやつ作りを通して

(1) 題材名 おやつですよ！ 小題材名 おやつを探ろう

(2) 題材の目標

- ① おやつの役割が分かり、自分のおやつのとり方を見直し、問題点に気付く。
- ② よりよいおやつのとり方を考え、自分の生活に合ったおやつのとり方ができる。
- ③ 簡単なおやつを工夫して作り、家庭での実践に生かすことができる。

(3) 研究主題とのかかわり

① 題材について

おやつは、児童の大好きなものである。物の豊かな現在、コンビニエンスストア等には市販のおやつが数多く並べられ種類も豊富であり、児童は宣伝などマスメディアの影響でおやつを選んでいく傾向がある。これらの市販のおやつには、塩分、糖分、油分が多い物もあり、また、児童がおやつをとり過ぎてきちんと食事ができない等、おやつをめぐる問題もある。

そこで、本題材では、児童の1週間のおやつ調べを基に、何気なく食べているおやつの問題点に気づき、問題を解決していく学習過程の中で、よりよいおやつのとり方を考え、生活に生かしていこうとする力を育成することをねらいとした。そのため、教材は、児童が最も好んで食べているスナック菓子の中から、簡単に手作りできる“ポップコーン”を選んだ。ポップコーンを作ったり、市販の物と食べ比べたりする体験学習を取り入れ、児童が手作りのおやつのよさに気付いたり、「家でも作りたい」という意欲を高めたりしながら、生活の中で実践する力を育てることとした。

さらに、これらの学習を通して、これまでのおやつの選び方・とり方を考え直し、手作りのおやつのよさも知り、数あるおやつの中から自分で選択できる自立した消費者に育てたいと考える。以上の理由で、本題材を設定した。

(表1)

| | 小 題 材 名 (時数) | 主 な 学 習 活 動 |
|--|--------------------------|---|
| お や つ で す よ ！ 8 | ○みつめよう わたしのおやつ (1) | ①なぜ、おやつを食べるのか考え、話し合う。 ②多く食べているおやつを予想して、自分が一週間に食べたおやつを調べる。 ③調べた結果をグラフにして、問題点に気づき、発表し合う。 |
| | ○おやつを探ろう (3) | ①市販のポップコーンについて調べる。 ②安全面や衛生面に気をつけて、ポップコーンを作る。 ③市販のお菓子と手作りのお菓子について調べ、比べたことをもとに、自分なりのおやつの取り方について意見をまとめ発表する。 ④栄養士や養護教諭から、とりよいおやつのとり方についての話を聞いて、自分のおやつのとり方を見直す。 ⑤おやつの取り方について自分の考えをまとめ、発表し合う。 |
| | ○おやつ作りに挑戦しよう (4) | ①「おいしくて、やすく、つくるのが楽しい」を合言葉に自分なりに工夫しておやつ作りの計画を立てる。 ②実習計画をもとに、協力して実習する。 ③実習を生かし、「家族の〇〇さんが喜ぶ」おやつメニューを作り、実践しようとする。 |

② 関連する教育の視点

ア 消費者教育との関連

おやつの購入にあたり、品質表示や製造年月日等の表示を確かめる。

イ 健康教育との関連

調理実習の前に石けんで手を洗う。身支度を整える。調理に必要な食品や用具を衛生的に取り扱う。また、市販のおやつに含まれる塩分、糖分、食品添加物のとり過ぎによる身体への影響に気付き、健康によいおやつを選ぼうとする。

ウ 環境教育との関連

加熱調理では、ガスこんろの炎の大きさを調節して、無駄なエネルギーを使わない。

エ 国際理解教育との関連

輸入材料を使ったおやつや、外来のおやつから外国とのつながりに気付く。また、学習過程の中に話し合い活動を取り入れて、自己表現を高める。さらに、お互いの意見を尊重し、協力しながら学習を進める。

③ 研究の視点

ア 学習活動の工夫

ポップコーンは、作りやすいばかりか、加熱による形状の変化が著しく、児童にとって興味をもちやすい教材である。また、学習意欲を持続するために、手作りとし販のポップコーンの食べ比べや、簡単なおやつ作りの実習による体験学習を重視した。

イ 学習環境の工夫

栄養士、養護教諭によるT・Tや、児童が課題解決しやすいワークシートを活用する。

ウ 評価、支援の工夫

児童や家庭の実態を把握するため、事前調査やおやつ調べを行う。また、嗜好や味覚については個人差を認める。さらに、学習カードを活用し、個への支援や評価を行う。

(4) 指導計画と評価計画（表1を参照）

| 評価規準 | 評価の観点 | | | | 関連する教育の視点 |
|---|------------------|--------|----|-------------|--|
| | 関心意欲態度 | 創意工夫 | 技能 | 知識理解 | |
| ①おやつの役目が分かる。 ②自分たちが、食べているおやつを調べている。 ③自分のおやつの取り方について、問題点に気付き、発表している。 | ③ | ② | | ① ③ | |
| ①ポップコーンについて、意欲的に調べる。 ②安全面や衛生面に気をつけて、ポップコーンを作っている。 ③市販のポップコーンと作ったポップコーンの違いに気付き、自分なりの言葉で発表する。 ④栄養士さんや養護の先生の話の聞いたり、実物を見たりして1日の塩分と砂糖の摂取基準量が分かる。 ④塩や砂糖のとりすぎが体に及ぼす害が分かり、自分のおやつを見直している。 ⑤よりよいおやつのとり方が分かり、自分の生活に生かそうとしている。 | ① ③ ④ ⑤ | | ② | ③ ④ ④ | ・国際理解教育 ・消費者教育 ・環境教育 ・人とかかわり ・健康教育 |
| ①今までの学習を生かして、条件に合ったおやつメニューを作る。 ②グループで協力して、おやつを作る。 ③おやつのメニューを作り、家庭で実践しようとしている。 | ③ | ① ③ | ② | | ・国際理解教育 |

(5) 事例1 おやつですよ！ おやつを探ろう (3/8時間)

- ① 目標 ○おやつ作りに関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。
○手作りのおやつと市販のおやつの違いに気付き、発表する。

② 展開

資料1

ポップコーンを作ろう



「火つける？ふた、持ってきてよ」
「早く！早く！火、だれ？」
「強すぎるよ」
「だって、始めは、いいんだよ」



「よくふるんだよ、でも重たい」
「焦げる。火、消してよ、
あっ！ちがう弱火、弱火、
なんで消したの？」
「先生、焦げた。
やり直していい？」
「ふたとるよ、10、9……0、」
「わぁー、大成功、やったぁー」

| 学 習 活 動 | 教 師 の 支 援 |
|--|---|
| <p style="text-align: center;">ポップコーンの作り方を確かめよう</p> <p>○前時の学習を思い出し、ポップコーンの作り方を発表する。 ○ポップコーンの作り方が分かる</p> <p>○安全で衛生的な調理をするために気を付けることを確認する。</p> | <p style="text-align: center;">ポップコーンの作り方を確かめよう</p> <p>○市販のポップコーンを用意し、思い出しやすくする。 ○おいしいポップコーンを作るための、ガスこんろの火加減と油の量をおさえる。</p> <p>○調理実習をする前の手洗いの徹底等、衛生面に配慮するよう助言する。</p> |
| <p style="text-align: center;">おいしいポップコーンを作ってみよう</p> <p>○先生の試作を観察しながら、ポップコーンの作り方のポイントを確認する。</p> <p>○グループに別れて実習する。</p> <p>○試食する。</p> | <p style="text-align: center;">おいしいポップコーンを作ってみよう</p> <p>○児童の表情を観察しながら、分かりやすく試作する。 ○フライパンに残った油は、紙でふきとるように指導する。</p> <p>○火加減を見て、正しくする。 ○失敗したグループは、原因を考えて、もう一度挑戦することを助言する。</p> <p>○手作りの楽しさに気付く言葉かけをする。</p> |
| <p style="text-align: center;">手作りのポップコーンと市販のポップコーンを比べてみよう</p> <p>○市販との比較 ・味 ・値段 ・材料 ・製造年月日 ・塩の量</p> <p>○比べてみて分かったことや、気付いたことをワークシートにまとめる。 <手作りの方が> ・ふっくらしていておいしい ・簡単に作ることができる ・みんなで作ると楽しい ・材料が分かる ・材料費が安い ・味がついていない ・失敗すると焦げておいしくない</p> | <p style="text-align: center;">手作りのポップコーンと市販のポップコーンを比べてみよう</p> <p>○前時のワークシートをもとに、手作りのポップコーンと市販のポップコーンを比較するよう助言する。 ○塩分の量について助言する。 ○味の感じ方は、児童によって差があるので配慮する。</p> |
| <p style="text-align: center;">分かったことを発表しよう</p> <p>○市販のポップコーンと手作りのポップコーンを比べ、分かったことを発表する。 ○後片づけをする。</p> <p>○今日の学習を振り返り、学習カードに記入する。</p> | <p style="text-align: center;">分かったことを発表しよう</p> <p>○発表やワークシートをもとに、次時の課題へとつなげる。 ○手作りのポップコーンは、好みの味つけができることを知らせる。</p> <p>○家庭で実践しようとする児童にはコーンを持ち帰れるよう、コーンを用意しておく。</p> |

| 評 価 (観点/方法) | 資料・用具など |
|--|---|
| ○調べてきたポップコーンの作り方を発表しようとしているか。 (意欲/観察) | ○前時のワークシート ○市販のポップコーン ○ポップコーン(生) ○手順カード |
| ○石けんで、ていねいに手を洗い、机上や調理器具を清潔にしているか。(知/観察, 自己評価) | ○ふきん ○エプロン ○三角きん ○石けん ○ハンカチ ○ガスこんろ ○フライパン ○ふきん ○ポップコーン(生) |
| ○ポップコーン作りの実習に、意欲的に取り組んでいるか。 (関/机間指導, 自己評価) | ○油 ○塩 |
| ○グループの友達と協力し合って実習しているか。 (関/机間指導, 自己評価) | ○ビニール袋 ○輪ゴム |
| ○安全に気をつけて、ポップコーンを作れたか。 (創・技・知/机間指導, 自己評価) | |
| ○自分で考えたり友達と相談したりしながらちがいに気付き、ワークシートにまとめる。 (関・知/観察, 自己評価) | ○ワークシート |
| | ○手作りポップコーンにかかった費用の資料 |
| ○自分の考えを発表したり、友達の話を聞いたりしている。 (関・知/観察) | ○ワークシート |
| ○協力して、きれいに片づけることができたか。(関・技/観察) | |
| ○学習を振り返ることができたか。 (関, 創, 技, 知/自己評価) | ○学習カード |



資料 2

児童のワークシート

ポップコーンってどんなもの

5年3組

| 売っている物 | つくってみたい物 |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 塩の味がきいた コーン・植物油・バター・精製塩 香料・調味料(ブミ)酸味 カロチンナイト色素 バターのいいにおいがした。 バターがついている所は黄色かった。 | <ul style="list-style-type: none"> ふんわりできた。 塩の味がした所とほない所があった 塩は下の方にたまってた。 売っている方が塩の味もついていて自分で作ったのもおいしかった。 |

ポップコーンってどんなもの

5年3組

| 売っているもの | 作ってみて |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> コーン・植物油・バター・精製塩 香料・調味料(ブミ)酸味 カロチンナイト色素 | <ul style="list-style-type: none"> 最初はうまいけど、2回目はちょっと味がきいた。でも、なんと1回目は3分ほどでできあがりしました。今度は一回でいい感じにできて、材料も余りませんでした。うっているポップコーンよりつくってやったほうが、バカでもおいしいです。 |

(6) 事例2 おやつですよ！ おやつを探ろう (4/8時間)

- ① 目標 ○よいおやつの選び方、とり方について考える。
○砂糖や塩の過剰摂取の弊害が分かる。

② 展開

資料3 児童のまとめ

おやつの選び方をもう一度
しっかりまとめよう

さあみんな
おやつ
ですよ！

「おやつですよ！」の勉強を通していろいろな感想や、これからの自分のおやつのえらび方、とり方について気をつけたいことを書いて下さい。

おやつのえらび方では…

なるべく、さとうは、少なくして、しおもひかえめに、
私は、冬でも、アイスを食べるといって、夏でもこのアイスをして、アイスは、ひかえめにしようと思っています。
また、おいしい、やすい、作りやす、また、食べやす、
このわを、仲りながら、おやつを食べ、しよに、いひひひ

おやつの、とり方では…

しおみかんせいどう年日日をたし、め、
より、年、に、あた、おやつをえらび、しよ、いひひひ、
また、いひひひ、おやつを、作り、たし、いひひひ

5年(3)組



さあみんな
おやつ
ですよ！

「おやつですよ！」の勉強を通していろいろな感想や、これからの自分のおやつのえらび方、とり方について気をつけたいことを書いて下さい。

店で買ったおやつと 家で
作ったおやつを比べると
塩・さとうの量がぜんぜん
ちがうことが分かります。
だから私は、ひまを見つけて
なるべく家で作、てみようと思
っています。その時は
塩・さとうを少なめに
しようと思、いました。

5年(3)組



| 学 習 活 動 | 教 師 の 支 援 |
|--|---|
| ○前時の学習、手作りとし販のポップコーンについての自分の考えを思い出す。 | |
| おやつの選び方を考えよう | |
| ○栄養士さん(養護の先生)と一緒に学ぶことを知る。 ○自分にとって、よいおやつの条件とは何かを考えまとめを発表する。 ・おいしい ・やすい ・つくりやすい ・塩味がこくない ・新しい ・栄養がある ・添加物が入っていない | ○栄養士(養護教諭)を紹介する。 ○製造年月日や原材料は袋の品質表示の欄に書いてあることを補足する。 |
| 栄養士さん(養護の先生)に話を聞こう | |
| ○よいおやつの条件についての話を聞く。 | ○児童の話の足りない所をおさながら、具体的な話をしてもらう。 ・塩分の1日のめおす量10g以下 糖分 " 20g以下 給食一食では、それぞれ何gくらい使っているか。 ・おやつに使える塩や砂糖のめやすはどれくらいか。 ・カロリーをとり過ぎないこと ・食品添加物について |
| ○さらにくわしく知りたいことについて質問する。 | ○説明のできない部分については次時に知らせる。 |
| 「おやつですよ！」のビデオをみよう | |
| ○ビデオを見る。 | |
| おやつの選び方をもう一度しっかりまとめよう | |
| ○本時までの活動すべてを通して分かったことや、おやつの選び方について、自分の考えをまとめ、発表する。 ○次時のおやつ作りの実践を知る。 ○今日の授業を振り返って、学習カードに記入する。 | ○特に市販品を買う時の注意を確認する。 ○「おいしい、やすい、つくるのが楽しい」をおさえて、次時におやつ作りの実践をすることを伝える。 |

| 評価 (観点/方法) | 資料 |
|-------------------------------------|---|
| ○積極的に考えを発表しようとする。(関/観察) | ○前時のワークシート ○ワークシート ○あらかじめ予想の答えをカードしておく。 |
| ○栄養士(養護教諭)の話をよく聞いているか。(関/観察) | 塩 10g以下 の カード 砂糖 20g以下 の カード |
| ○話を聞いて、質問ができたか。(関/観察) | ○ビデオ |
| ○おやつを選び方を考えたか。(関・知/ワークシート) | |
| ○学習カードに今日の授業を振り返って、記入できたか。(関/学習カード) | |

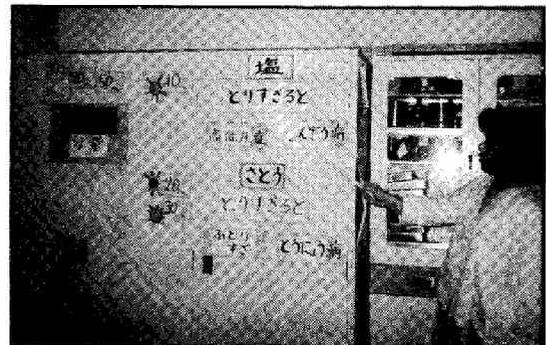
資料4 自作ビデオ「おやつですよ！」について

○制作の意図—既製のビデオ教材は、時間が長く、内容も豊富である。そこで、指導内容を約5分にまとめたビデオを自主制作した。

○内容



①兄：裏についている品質表示というのを見ると材料とか、いつ頃工場で作ったとか品物のことが、みんな分かるんだよ。



②先生：塩をとりすぎると、高血圧やじん臓、心臓病の原因になり、砂糖をとりすぎると太りすぎや虫歯、糖尿病・



③お父さん：うーん。いいにおいがするぞ。
兄と妹：おやつの合言葉「おいしくてやすく、つくるのが楽しい」だよね。

(7) 考察

本題材では、スナック菓子の中でも手軽に作ることができるポップコーンを取り上げ、意欲的に取り組めるよう、試食や調理を取り入れた課題解決的な学習を設定した。

課題把握の段階では、各自が1週間に食べたおやつを調べて、そこから問題点を見つけていくようにした。児童が実際に食べたお菓子の袋を集めて提示したり、その数をグラフ化したりして、視覚的にとらえられるようにしたことは、課題を自分のものとして確かにつかむことができ大変有効であった。

追求していく過程では、その子なりの観点で市販の物と手作りの物を比べてまとめられるようなワークシートを工夫し、違いを明確にして考えられるようにした。また、毎時間のめあてと自己評価を記録するようにしたことにより、自分の学習を振り返り、次時の学習に生かすことができた。この記録は、教師が個に応じた適切な支援を行う際にも役立った。

実習の際は、調理の順序を絵カードで提示した後、試作しながら安全においしく作るためのポイントを説明したので、戸惑うこともなくスムーズに調理することができた。うまくいかないグループには、あらかじめ予備の材料を用意しておいたので、素早く対応することができ、満足感を与えることができた。試食後の感想では、どの児童も手作りのよさに気付いており、「ふっくらしていておいしい」「家庭でも作ってみたい」という声が多く聞かれた。

おやつの選び方の学習では、健康や安全の面からも、よりよいおやつの選び方を考えるようにした。栄養士（養護教諭）とのT・Tを行ったことにより、学習が広がり、児童の疑問にも十分な対応ができた。この学習が、栄養士（養護教諭）と児童との触れ合いのきっかけになることも期待したい。

「おやつ作りに挑戦しよう！」では、「おいしい、やすい、つくるのが楽しい」を合言葉に、一人一人の児童が自分の思いや願いをもち、工夫しておやつ作りに取り組んだ。

この学習を通して児童は、人とのかかわりの中で、手作りのおやつにも目を向けるようになり、選択の幅を広げた。また、家庭で実践しようとする姿も見られるようになった。さらに、食品を選ぶ際に、塩分の摂取量や食品添加物についても考えるようになった。そこで、第6学年では、品質のよい安全な食品を主体的に選び整えようとする態度や実践力をさらに伸ばしたいと考え、「加工食品の特徴や選び方」のところで次のような学習を計画した。

| 題材名 | 小 題 材 名 | 主 な 学 習 活 動 |
|-------------|--|--|
| 1 学 期 | 調 理 の 工 夫 | がど あん ろるな うだ調 (4) 理 |
| | 加 調工 みべ食 よて品 うを (8) (4) | ○いろいろな調理法 (1) ○じゃがいもについて (1) ○じゃがいもの調理をしよう (2) |
| | | ①食品は調理の仕方によって多様な料理になることを知る。 ②じゃがいもの選び方と栄養的な特徴を調べる。 ③じゃがいもを使った調理の計画を立て、調理実習をする。 |
| | | ○魚や肉の加工品について (1) ○加工品の特徴や選び方 (1) ○魚や肉の加工品を使って調理をしよう (2) |
| | | ①魚や肉の加工品にはどんなものがあるか発表し合う。 ②魚や肉をなぜ加工したのかを考え、いろいろな加工法があることを知る。 ③魚や肉の加工品には、いろいろな添加物が含まれていることを知り、安全性や健康を考えて加工品を選ぶ。 ④魚や肉の加工品を使って調理実習をする。 |

(8) 第6学年の実践例「加工食品の特徴や選び方」

- ① 目標 ・肉や魚の加工品には、発色剤などの添加物が含まれていることを知る。
 ・安全性や健康を考えて加工食品を選択しようとする。

② 展開

| 学 習 活 動 | 教 師 の 支 援 | 資 料 |
|--|--|--|
| ○日常よく食べている加工食品を確認する。 | ○家庭で多く使われている加工食品の空き容器を提示して興味、関心を高める。 | ・加工食品の空き容器 |
| 加工食品の選び方について知ろう | | |
| ○発色剤入りのハムAと、無添加のハムBとを見た目、味、検出紙を使って比較し気付いたことをワークシートに記入する。 |  | ・発色剤入りのハムAと無添加のハムB ・亜硝酸検出紙 ・ワークシート |
| ○発色剤などの添加物の使用を見分けるためにも、表示を読み取ることが大切であることに気付く。 | ○AとBの表示を読み取り、検出紙が変化した方には発色剤が添加されていることに気付くよう助言する。 | ・A Bのハムの表示 |
| ○各自が持ってきたハムの表示を読み取り必要以上の添加物が使用されていないか確かめる。 | ○ハムの表示を実際に読み取る活動を通して購入の際の選択眼を育てられるようにする。 | ・各自が持ってきたハムの表示 |

- ③ 考察 味を比べたり、検出実験をしたりした体験的活動があったため、児童は意欲的に学習に取り組んだ。

これらの体験を通して多くの児童は「見た目だけでなく添加物等にも気を付けて、表示をよく見て買おう」という感想をもった。

| 評 価 規 準 | 関・意・態 | 創意 | 技能 | 知・理 | 関連する教育の視点 |
|---|-------|----|----|-----|-----------------|
| ①ゆでる、いためるなどの調理方法があることが分かり、調理に関心をもつ。 | ① | | | ① | ・健康教育 ・消費者教育 |
| ②じゃがいもの選び方と栄養的な特徴が分かる。 | | | | ② | ・環境教育 |
| ③簡単なじゃがいも料理の調理計画を立て、調理をする。 | | ③ | ③ | | |
| ①魚や肉の加工品に関心をもつ。 | ① | | | | ・健康教育 ・消費者教育 |
| ②魚や肉の加工の必要性を考え、加工法を調べる。 | | ② | | | ・環境教育 |
| ③魚や肉の加工品に含まれている添加物を知り、安全性や健康を考えて加工品を選ぼうとする。 | ③ | | | ③ | |
| ④魚や肉の加工品を使った調理実習ができる。 | | | ④ | | |

IV 研究のまとめと今後の課題

本年度は、主体的によりよい家庭生活を実践する力を育てるために、学習活動、学習環境、評価・支援の工夫をし、授業実践を行い研究を深めた。

1 「被 服」領域のまとめ

- ・ 児童は地域の高齢者の堪能な技を直接目にし触れ合ったことにより、人と人との触れ合いのよさを体得した。このことは人との触れ合いを大切にすることにつながった。
- ・ 一人一人の作品をクラス全体で一つの作品に仕上げるなどの活動を通して、児童は互いの作品を認め合い、よさに気付いていた。このように、相互評価や自己評価を取り入れたことにより、児童はさらに家庭生活等への実践意欲を高めた。
- ・ 実物や模型、ワークシートを工夫し、児童の興味・関心を高め、地域の人材やT・Tの活用によって個に応じた指導を行い、児童は楽しい学習をしながら基礎的な知識や技能を身に付けていった。

2 「食 物」領域のまとめ

- ・ 児童が自分のおやつを振り返り、おやつの実態を把握した上で「ポップコーン作り」をし、とうもろこしが加熱によってふくらんでポップコーンになったときの驚きと感動が、家庭でもおやつを作ってみようという実践意欲につながったり、課題解決的な学習を進めたりするためのよい導入になった。
- ・ 「おいしくて、やすく、つくるのが楽しい」を合言葉に小グループでおやつ作りの計画の立案、実習を行ったことは、友達との意見交換の場を作り、協力して作業をするなど互いのよさを認め合うきっかけとなった。また、指導後には、家庭でのおやつ作りの実践報告もたくさんあった。この学習では、おやつ作りを通して、児童が消費者として主体的に判断し、選択できる力を身に付けることの視点をも大切にした。

以上の結果、まとめると次のようになる。

- 自分の日常生活の実態を調べるなどの活動を通して、児童は自分の生活に目を向け、自らの課題をつかむことができ、課題解決的な学習を進めていった。

課題解決的な学習の過程では、実践的・体験的な活動を取り入れたので、基礎的な知識や技能も身に付いた。

- 実物、模型、実験、ビデオ等、視覚や感覚に訴える教材・教具を用意し、学習環境を整えたことにより、児童は進んで実践しようとする意欲を高め、さらに家庭生活での実践へとつなぐことができた。
- 地域の人とかかわる場面や校内の様々な人とかかわる場面を設定したことにより、生きた情報を収集し、活用できるようにした。このことを通して、児童は人と人とかかわりのよさを体得し、さらに、主体的に人とかかわり学習を深めていった。

3 今後の課題

本研究では、評価・支援の工夫についての研究を深めるまでにはいっていない。今後も指導計画を見直し、評価と支援の在り方について、さらに研究を深める必要がある。

また、他の題材においても、児童に育てたい力を明確にし、家庭・地域社会とのかかわりや6つの関連する教育を視野に入れた指導を実践していきたい。